

## 木材価格市況標準相場

令和8年6月3日

東京木材問屋協同組合  
価格市況調査委員会

## ○今月の価格動向

## (1) 値上げ品目 11

秋田材 1

北洋材・北欧材 1

合板 9

## (2) 値下げ品目 なし

## ○今月の市況動向

5月の荷動きについては、4月に引き続き全体として低調との声が多かったものの、一部の大型案件に支えられ、前年同月を上回ったとの報告もあった。ナフサ不足の影響については、大手ビルダーやハウスメーカーにおいては、現時点で大きな支障は見られていない。一方、中小工務店や物件案件では、資材の調達難により、工事の遅延や一時的な停滞が発生している事例も見受けられ、今後の影響拡大が懸念される。

(国産材) 原木価格については、用途の豊富なスギが引き続き堅調に推移している一方、ヒノキは弱含みの状況が続いている。役物製品については、荷動きは低調であるものの、新材の入荷量が少なく、仕入れに苦労しているとの声も聞かれた。

(輸入材) 値上がり品目となったホワイトウッド集成管柱については、国産製品の値上げを背景に、比較的割安感のある輸入品へ需要が集中し、市場在庫は大幅に減少している。また、接着剤不足が深刻化する中、国産スギ丸太を中国へ輸出し、現地で製品化した上で再輸入することで、価格面での優位性を確保している事例も紹介された。米材製品については、入出荷共に、低調な状況が続いているものの、入荷量の減少幅が大きいことから、市場在庫は減少傾向にある。

(合板) 合板については、3か月連続で全品目が値上がりとなった。国内針葉樹合板では、5月前半は供給不安を背景とした引き合いが多く見られたものの、後半になると仮需的な動きは落ち着きを見せ始めた。尚、6月については、メーカー各社から約1割の値上げが発表されている。輸入合板については、4月の通関統計が17.1万㎡と前月比で微増となった。国内合板同様、前半は引き合いが活発であったものの、後半になると市場の雰囲気に変化が見られた。しかしながら、現地価格は依然として高止まりしており、値下がり要因は見当たらないことから、今後も仕入価格の更なる上昇が予想される。